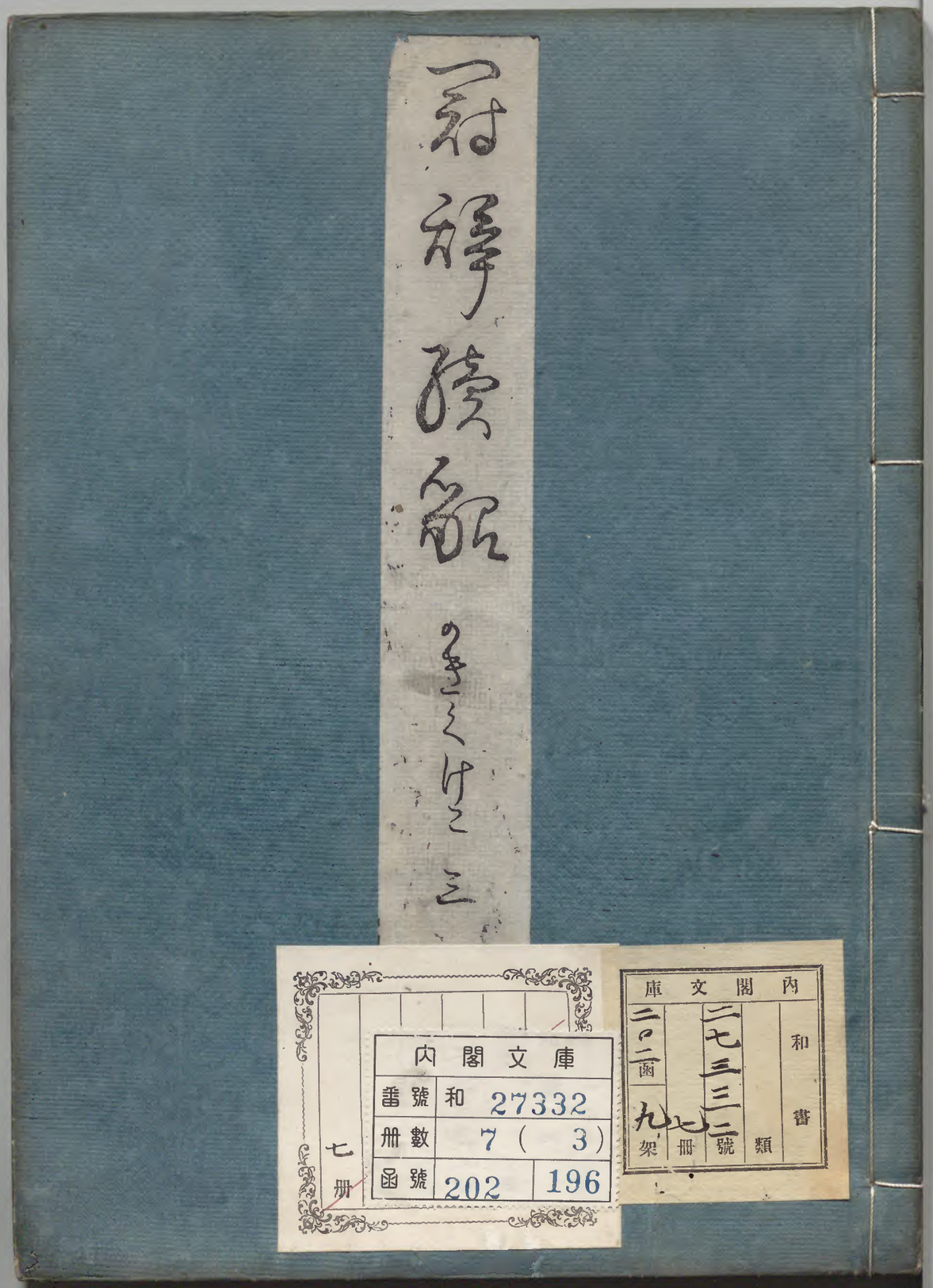

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

府舞殿新造ノ事

加茂ノ久古

ふじの峰
ほかすき雲
かゆのゆの
かつら物
ゆづれ月乃
夏によりて
きくれた花
ゆ方でら

かけたる
枝やり火の
ゆは市ち
ゆ方ら物

ゆくるゆ
かつ夏乃
ほ花芸
ゆわ衣
かつもひの
ゆづれ月乃

ゆ方の作り
きてと新
ゆ方の

ゆみごより
夏によりて
きくれた花
ゆ方でら

明治十二年購求

それ竹乃
ゆきまるゐは
ゆゑ波ぎの
こづゑ乃

そまぶのはれ
九波ぐまに
こハ名川

古ゞ歌乃

こけたるの　あやうよ

この子れはと
みよ人のあ
より知そる
作り車を
乃て いつよ
るおそそ
作りくれそ
たそそそひ
られハ生て
るひのある
しときて
つ月ゝを
みいとうの
さるるる

後撰集。みづまに。心のやうなれかゝる稽乃。あやうよ
物て。そよげりる。山路の横道をとり戈ま
寄る庫の陰樹のゝるゝ所とて。人まあよ（キモ）まひ
を金（カク）るんよ。とり助くてあやう。とのこちこそて
るし。古賢よ浪人を制（サク）あられて居る。高山に
寄る人のとる行ゝ助よ山をもつまゞ。ゝに。人の
情歌て。とり助よ物よて。ゝる嫁（タク）ゝるゝ。ゝ
やもとよたそそ。ゝをて。ゝをゝ。ゝ。ゝを

[illegible]ゆるとこのよハ。あ[illegible]ゆるにきら
ひなれ[illegible]ゆ。それ[illegible]代のそらづゆ[illegible]る
[illegible]ぶいとあゆ[illegible]うぶ[illegible]もぐ
まるゆし

かへ海山

うひるゆ[illegible]
るよ[illegible]
ようよまかる[illegible]
すくし
みてうにく
と云へよを
うるくを
云まるよ
いとこの
うるゆし

[illegible]ん集。白[illegible]よ。ハ[illegible]隆しける。かへるゆ。このく
も。老よ[illegible]る世[illegible]ハ寛平の后宮の歌合
世の[illegible]なれば。よ[illegible]人の[illegible]をきるけ[illegible]くよ[illegible]あらて。
[illegible]ゆ乃雪を[illegible]ゆ。[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ひてやまりけん。この

とり雪のゆりつみ[illegible]を[illegible]ゆ[illegible]る[illegible]よ
いとそ[illegible]。[illegible]の[illegible]よ[illegible]蘇の[illegible]
社。神名帳よ[illegible]ん。[illegible]りのゆ[illegible]
みくそつ[illegible]　神[illegible]び川　[illegible]田の[illegible]　ねでの[illegible]川
[illegible]ゆ[illegible]の清[illegible]ゆ[illegible]て[illegible]一種の[illegible]
て[illegible]の名を[illegible]おくと[illegible]冠[illegible]。中世の
人。[illegible]の[illegible]く[illegible]。[illegible]が時と[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]
も。第[illegible]の。かそつ[illegible]。神[illegible]び川よ。新[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]。[illegible]に。[illegible]かそつ[illegible]。ねでの

ひたすらに名りけり。此こゝ言とゝ。かゝづゝとゝ地名を唱おもてゝ詠りのことなるを。ゆゑみなるゝ所と知しハよくゆゝしきあるし。此物素のゝこのばより ちぐろよりて。秋の七ハ月をちつゝと時しよりて 芋茎ふゝ茎よゝ秋の新とて。きゝハちゝのかゝる新 をゝり こゝるのあゝ。誰もゆゝるゝこゝくゝるる物し。 あ陸人のこゝ。こゝハ栖養の稱にて。石鏡と云。一名 鏡子（キンノウシ）とこゝ。其性味の鏡ゝ同ゝとゝ。ゝにて も 食ふゝをゝ。自年記藤邦のゝ。みゝ栖（クズ） 者其為人（ヒトハ。ナリ）淳朴（ツヽヨニ）や。毎取（テノ）山菓合（ヒ）ス所者（テ）栖（ヲ）

三三

その世ゝよりゝ
うゝつをゝ
麻ゝゝゝて
ゝゝゝし又
魚ゝよりも河
麻ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
村ゝ魚と
ゝゝて物と
いりゝゝち
ゝのゝの言
泥酒ゝて
ゝゝゝゝ
ハゝゝゝ
ゝゝゝゝ新
あゝりゝて
ハゝ井川
ゝゝの川ゝ
ゝゝゝ
ありみゝ
の川ゝゝ
川ゝゝも

為上味。名曰毛豫（モミト）とゝゝゝり。栖ハ吉野のゝ中のゝゝし。ゝゝ千八村ありて 西栖の所ゝゝ みゝゝ記為美ゝ 近者の祝詞或ゝ。谷ゝゝゝとゝゝゝゝ。谷懐（ヲ）とゝゝる 俗ゝゝゝゝゝゝ。かゝち栖 に似て。ゝ。ゝく大ゝく。こゝハ柴ゝをゝゝゝ。 ゝゝゝ。ゝゝ日にて豊ゝ。おゝに。おゝゝ ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ。ゝゝ乃。ゝゝゝゝ。 ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。 ゝゝゝゝゝゝゝゝ

きてつ
いてこのをハ、云べこのらもで。是歌の歌。沢水よりかはづの声
おてのをとり
てこそとり
おてのをハ
とこも流
ハ河一大井
のまをとろ
らハとこそ
河一大の
おてのをよ
をハとこハ
ほのあるり
のこをに
ていこく
をあこをて

さそよけり。わそうちゃうん。是のいふ田をそで。
山のうづまらぬ物をよみ一初めをとおぼゆ。
指是歌よ。沢水とうたづるしゃうんの
ろ水歌や。是よこゆらんなどうかはづ吹の
よみあらせと云伝とも知あらん。かきい沢水よ
ほ物よあらぜ。お歌をこそ知をほてよめがる
のををを

こで　まゆ乃　うとてゆもる

古と系。こゞりゆに　あらぬ　ゆの　たゞ　ゆゝく。

海の川り。うきて　ゆゆらん　そ　ゆゝで　たゝく　云よ

いつるまで。冠りゝ　あらば　さまど　そに　ゆらして。

冠　ごとに　ゆゝ　ぐまの　ゆゝ　籠川　のゝごりと。

遠（ハヒ）　蜂　を　ゆこゞり　ゆを　ゆゝく　ハさゝ　そゝ　そゝて　ゆよ

ゆゞ一。又。ゝゞりゝゞの。新と　ゆる　ゆゆ　みる　ゆゞ　きい。

流　まて　乃　よ　ゆゝ　ゆゝ　ゆし　けり。ゆゝ　よ　籠川　の　ゝゞりゆ

し。そ　い（お）　ゆの　けの　ゆゝ　ろこに　ゆ　ゝて　こゆる　ゆ　ゆよ。

ゆゝゞれて　いゝゝゞ　ゝく　ての　ゝゝし

かきはぎ

人の　ゝゝと

系　ゝ系。かきはぎゝ　ゝ。人の　横云（ヨコヽト）　ゝゝ　ゝかゆ。ゆ　ハ

ぬ日　ゆ　ゆ。同　ゆ　ゆ　ゆ。ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

に　ゆ　ゝ　ゆ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ぬ（ナス）　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

し。ゆ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ

しけんそやくせずゝにん人のいひふるゝにそるゞ
とゝゝゝみてやりゝゝ。梅木ハ歌りあるして。森ちもゝ
木あるしハ。もるそしてゝのきゝゝゝかしち木の杜とそゞ
みゝよあらゞゞ。楢(ナラ)の葉をとゝとらきしこのハ。柏(ナラ)ゞゝは
とゝ木のゝりにやゝそゞハきら紫とて。ゐ(ミカヽギ)ゝ彩ゝとそれ
ハ。あゝゝゝ。椎つゞて。森林をゝるゞゞ。みゝ葉ちの外
ゝ。梅木ゝりのゝとよゝゝゝ。ゝるゝゝ。ゝのゝ例のゝゝ。何の
木ゝゝ光てハ赤ゝゝとゝをかしハ木ゝゝ。青ゝゝゝハ葉ゝゝ。ゝゝとゝる外
ゝハ。ゝゝゝ。ゝゝゝ

かはうやの　　そぐれ

お今案まめなれど。伊ぞいよけくかるのやの。
れまそあれど。何ろくもなし。実法めさこる
人も。ぬようきるのみよいあらぐ。ふおこるひの
ぬりざてよるも。はこ何しまむそひのさこる
のこにおこるどとし。のるむやいみぐれざまよる
物しとい一種の草共ふて。草の表乃。ぬくご
ちこ一尺だりに。ねそ草も物もたるもみぐとて
ふ物したるにはみしいそもあらどたぐてのるの
ねひけこるを刈て。低初のいほりよ取ふく名

非代記よ。野の邪を草姉（カヤノセメ）と中も草姉（ツノサ）草よといは
めそ。あよとをふく用を。ものたとむあし。その
みを抜ゆて。野山草どやりをつこりて
ふを草ろきを行屋（カリホ）と云乃草ふ草よ。秋のよ。
高草刈ろさやどれわく。宇治の紙乃。りほし
ねもほゆ。又。あみ子（セコ）よいりほつこらす。かやちく
ば。ゆ花ぐもとのやをかからこまよ。抜色草よ。
いのくにちくくいる草。抜人のやり刈おほひ紙ろ
てふ。まろやい人をおもひるこ丸屋をあをよ
そばい草姉ちるを。低ろめの屋をふくとて刈

こぐの紙ハ
こよ紙の
ありにあら
す行こをを
一枚ちこら
こをあと云

まろやハ
草のまろ
やと云く
ひくし一枚の
ありにハ屋根
のこちも
ちく丸ら

ちるもてもし
田こゝるる
うりろめて
てゝるもし

を。めりうやとゝし。こゝやいうりやの
に。東枯のあらぢがもとのかるうやの。れて物を思ふ
けてゝる。壬生黒岑の条。咲花のえかをるうや
いほひて。人おゆを。あづにもてらん。そゝおいその
なめゝるべ。み源順のさんざいのこのこゝに。
ゆく秋の見うみぐるかるうやいきあゆつ宮も。
とゆこぐりけて。花の方の歌。まつ梅ぐつの方も
ちゝかるものやり。こゝ代の美を。のぐ。みだこうで。況
物の思ひ。けるかやゝたぐのぐ。こゝ代のうぐと
とゝるわり。秋のゝよかるこのやよいあらぐ。春の磨ゝの

三八

咲ゝん物の。花ちん男ひ生ゝるとあて。その
ちゝ。ゆ生どにゝ。花草。露よいう
るものよぐりゝるとゝ。へるは。何のそゝよや。泊あよ
種のちゝ。ば。知ぐ。

かゝ衣　ひもゆゝ　なれば　あを　ひもゝぐ　うゝて

おゝん条。夜ゝゝ。日もゆゝ。るになりしのば。かゝ
まぐぐ人いゝひ。ぎゝ。い装束の首ぐの入孫を結
ふとゝを。日も文義ようひけゝ。こゝかゝすゝと
云ゝ。衣のゝゝをゝつ。ぐゝのゝきゝ。又。から衣ゝ
まば。ゆよゝゝまつゝれ。あがけてのみや。ゝひんと

すゝひそゝ
九太のあら
ゝゝのゝよ云の
ゝゝのゝよ
せゝこハすこ
れそゝの名
ゝゝゝゝし

わとをれ。そいあらをれまつぐらきとらひよを。是
うけてとも云ふ。衣をぬぎていかゝ（カケ）おくるよせうり。
みからゝ衣をつきてしみ〳〵心ゝろ。二むらの山の笑
とゝりけあ。そいあ衣をうちぬるうにせて。うう詣
の勅（タチ）をきばゝりを。拾ぶつ人をとゝめあうぬるゑ
心ゑ。衣でのゝゆぐき。二村山乃笑をとりて。こゝつぜ
ゝゝしみ。きを金ぜやゝとゝはあらぬこゝゝ衣。けゝ
ゝでゝあゝよゝもの鳥。衣をけゝも強ぬゝてゝけーのゝ。
錦（カラ）衣と云 拾古乃山時より。朝紙ゝとく唐崎（カラサキ）に改りーを
とゝ唐ぶ
ゝゝゝゝゝゝ
かゝ。衣とゝ云語のゝゝしけゝどゝのゝゝゝゝ唐ぶ

の衣をけとゝ云よハあゝ見ぶ。安倍のやゝ見ゝにいゝあ
ゝゝゝゝゝゝ

ものもとゝのめるものゝ
意の袴。或袴。の意ぶりのもし。堅あねずりを
那ぞりとゝ。のあね猫をのぞまとゝ云とゝぶ。の所
にゝみしハ考へるべし。匠を結ぶ。意の猫とゝ
ゝ。考のみて云ゝ云まぢく。色ハ少松猫美の猫
の屬して。意のものゝちを袴帽ちゝべし。で
楽色のものゝこゝらべ。のあね袴とゝ所らあ
○袴衣。一名襖袴（アヲカリキヌ）と云り。青の俗訓を。襖の
字を用ひしなり。ハ白衣しと侵世のあるえゆ
ゝ。あをを云。あをを袴の俗ゝ白ゝをあをを云

ゝ。みゝの袴のゝ衣とゝみゝに云。青ゝゝて
もあらあ。襖の字ゝ云ゝ奥ゝゝハあゝとゝなゝら
あをあゝゝ所ゝ袴ゝゝをゝあをゝゝ色ゝのゝゝより偽ゝる
ゝてゝ袴ゝゝ袴ゝゝ袴ゝ

身せいとうの書よりこの表とひとしき代もみる。
みうらのたまをもかくよ人をもそなへ。後撰には
ナさらはてをもはなとてはいうば。伯院大弼成
どのゝえうてまひてゆあくをめをせ弱みをと
て。海おもしろみをこるの。物よえそうり
こうをはいき　あちうてい
後撰集。あるひ。をもきさ歌ゐつをはて。い
うのせよとかくいつれちを。絵を義をゐのこを
はよをこり。かくゐをしもものはおのゐるあ
しとのとにいあらで。和おもひてをもし。等義ふ

義りをこりけおほゆを安こ吟てゆものゐ。ゐが
名はあれど。家名はをしもをこいををはて。
人もはゐうをとかあ。中きを人義をあ
ゐはゐゐてをゐ云ゐをのをつをのををし。
をこのはゐ心をゐゐ様を。頭をいをおほをあをは
をゐるをゐのをはゐをのはかをこをにををゐべ
をゐゐをゐををを

古今集の序みよ。けう歌のよろこびをいふて。
歌のけりをを。時くよかけしのこ
かゝもひ乃ゝそまふ
歌をふ歌。わをひやる。をべの志らつゆ。けもん
のそさよそ。あい。志なりにる。こゝ思ひを
けゝ堀ようけゝり。に堀い蔓なゝよ合志ゝし。
ゝ歌をつゝあて
ゝもひと
云ハ古ゝ云
ゝ
ゝ
ゝ

ひゆるはこのりまふ
おほゆるといふを

かぐ　おもひこぶて

かぐ和名

古今集　そのかぐなるわる。思ひこぶて。和名抄

かぐのあるを果餅の中ふ。結果。形如結結。和名かぐ菓子の和と
をつぐめて
うぐまれ
ゝゝ云かぐ
香ばしきこと

ゝゝ。形貼の中今の浪。唐ゝぶ餅の中に
九右ゝよちぐゝる物ゝ。さい姫のもつて。外
だりてゝゝりゝる物ゝしと云ふ

米

ゝでの代り　ゝてのゝ

古今集。ゝでの代よ。あふ坂山乃。ゝ清水。あかく
結ゝりと思ひわるゝ。そみゝでゝ古代と先
ほゝぐゝ云ゝてゝるに。あいゝゝでゝひまゝ
ていゝゝ井乃林ゝでゝゝれる。海苔ふの隆うづみゝる
あゝく。ゝとゝはゝてゝるゝでとなゝぐゝゝ。ゝの伝
にゝゝみゝ人のかゝくゝでゝゝゝゝゝる。
あゝゝゝのゝ乃ゝゝゝこゝ。ゝゝゝゝ井のゝ
ゝゝりあゝゝゝ。山の井乃清ゝゝ。ゝゝゝ有ゝる
べ

天ごのよ　なごらのも
拾遺集。天ごの代乃。ながら乃山乃。うひあると。
のどけきこゝのゝかるゝ時ゝ乃。祝詞ゝ。遠代
乃。ゝ代とゝぞ云ゝに同ゝぐゝ。ゝてゝるのゝど
けきゝ雲乃。ゝるゝを見て。ゝゝまゝる。ゝ乃。ゝゝと
云ゝし。なごらも。也ゝ乃。ゝ賀。ゝゝゝ在
天により　ゝゝゝ
古今集。天ゝよゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ
ゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

沼乃。まづ山やまをひらんをまてらむ。をををおもて。
きをそそ。はくとのけてぶて波のことわざをも
らぬ見ひて。山の都きらあとし。生田の浦。
津のぶうばら新くしらしも
業の記　きくみてのそあ　うるを
所の業。けてをそ。ほそそきらめきてくの花。
やしにうがえあ。さてるみをまて。ぶにをけん
のみ。ほ稀業。和をそれ佐りをるあよてうはし
をる。いよきをしうりはてにし業の花。実へ波
いるをとふ。ゐれうアをるべき。業ハ芸白とをそ。

おををへて。ほそ。ぶよまつるを。人のゆをうはり
はし。うつ海まづ佐りをくしも

歌

ふてみの

そゝ神乃

萬葉集。紀略よりそゝ。いもらありとく。榜上乃（クシカミ）

そのちよ　二つとゐも。妹そゝ乃みこけ生。戎人の。雷岳神（カミ）の

ゐ神とをいう　そゝ神とうけ一しとゐるなり。そゝ神の

とゝゝゝゝゝ　二神。大名持の名義の二神。二とゐて。二

歌の名よ　神の御ときもべを。伊吉。紀乃壽詞（ヨゴト）よ。神海（カミロ）

つゝていふ　時神海（ヨロ）乃二上（フタガミ）とあるし。かづらき歌の二上

いて考う　ゐ。二神の二峯（フタ）にまをせると云名義し。紀

よもつき　海乃男の峯女の峯あり。をとゝ。あげ

きたる　海の底乃。言とゝ。海とゝあれども。明神（フタガミ）の。

そのちよ　明神を明　き乃。伊吉（キヒタチ）の。兄が。ほゝの云云。同じ。

神とうけ　神とゐうり　よ。雲立。みづ。きゝれふと。

あゆるり　明神ハあゝ　よあるに。男の神よ。

ゝゝとゝ　てゝとゝ　みてゝの　ぬき。とゐるも。男。

ゝゝ　ゝゝ　ゝハゝゝの　ゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝ

ゝゝ　ゝゝ　明の　てゝ神のゝゝ神とゝあるハよゝゝゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

草のげ乃　あらかの砦

万葉集。草陰乃。あらかの砦。草陰を。ん

てゝか。ゝの。ゝゝゝゝん。草陰とハ。ゝゝ。ゝゝし

ゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝ

さらはく。伊勢のたかあら野をはじめて
云々あらで。伊ハ西海。そもどりの野をとらふ
なるべし。伊勢のをハ。伊勢の安濃郡なり。あらのの
ゆいでこそ。と遠江の国濱名の郡より。荒井と
云所あり。万葉のハ。荒蘭とかきれど。こゝは花ら
めゝのいとゝ。笠をハみちのくに国名在とぞ
こゝ万葉
つら
お今こゝ帖よこ地のこゝ。ぬ。ぬ。ぬ

後者や。昔の字体よりなる所なり

うぐひの歌乃　うぐひみ　うぐひび

おとこ歌。秋風の。吹くうぐひす。谷ちかみ。なきこそ。なれ。なれめ。なきこの。ほとり。よく宣歌。男歌。ふ。おとこに。はくるうぐひの。はつ。うぐひす。ひとりびとりに。ゆるみ。ひとりの。秋よ。あくが。消むとて。先来てゐるを。心の来

結ぶ。ゆるる。嗚。てのけて。うらみよ。心。てびきよ。もいて。り。このうち。の。自然。うぐひ。うぐひ。うぐひ。ゆ。秋を。来ハ。より。ほ。ゆ。ぐ。歌。歌。歌。

しおの。おの。秋。のう。ぐひ。の。ぐひ。ほ。ぐ。へ。り。ち。

にハ。ぐ。ぐ。

みを。秋。のう。ぐひ。の。ぐひ。ほ。ぐ。へ。り。ち。

うぐひ。ふ。ほ。ぐ。へ。り。ち。ぐ。ぐ。

くもの歌

高宮。山。の。歌。大。宮。に。風。待。ち。ど。の。鳴。の。み。れ。心。ぼ。そ

ぢを。思。ひ。や。ら。る。ん。鳴。の。中。に。ま。ち。ま。て。居。る。と。

くもの園と　よ。ま。め。に。え。お。の。ぞ。鳴。か。ら。ゆ。ん。ぐ。ち。る。る。ま。ま。

言の葉うつふ　ま。る。と。鳴。い。ぞ。て。る。思。ま。か。け。り。鳴。の。ち。が。ま。と。る。

ま。み。ち。り

ま。れ。ま。る。乃　人。を。あ。く　おもひろも　ゆ。で。て

お。今。来。る。乃。ま。に。え。ひ。ど。。（コモリヌ）。後。沼。の。下。に。ま。ひ。て。来。ハ

死。ぬ。と。も。ま。ハ。ま。と。ま。で。ま。け。し。し。ま。ま。よ。出。で。ハ。ま。の。ま

し。又。ま。ま。ま

るてふし。万葉ハ。庶げもて流へバ。をれはもるを。
人を偉るこのけてり。又。紅乃。ゐりでてゐく浪よハ。
袂のみとり。染ゐとりゐれ。ゐてゐりて、ゐを
出ゐを。血涙ゐゐゐ人てこけり。拾遺集。ゐ乃。
いつれのをゐ
も一ーほ二し
ほとゐひゐ
やゐゐも云
ゐをこゐを
ゐるゐゐし
やしほの衣。かゐてあらそ。思ひゐめぎとあらそし
物を。此分万葉お人ゐゐの集。ゐの末つむゐを
ゐある歌ゐ。花の末をのと描てをゐる物ゐ
ゐ海べゐに
ゐけてゐらん
新撰集。わゐぎもゐに。ゐて乳在ゐる。べなゐか。
ニタレタル
ゐゐゐんゐ。ゐゐゐ海べゐ。ゐ海べゐハ。ゐ乃。

弱の字を用ひり。糸を繰る男し。ゐれゐひ
ゐせて。おゐひをのけてゐりゐらんゐとゐ。ゐゐれと
云も糸のゐせゐ泡し
ゐゆるゐ乃　いゐぎ
拾遺集。ゐのゐてけイをゐゐらん。ゐゆゐゐのい
ゐゐ出てゐゐかひをゐり。又。ゐ物ゐゐゐの乃
ゐゐいで、ゐ。ゐゐゐゐゐゐ、ゐゐゐゐて。ゐ。ゐゐ
つ白波。和名抄。相模国。餘綾郡（ヨロギ）伊勢の山ゐ仕。
ゐゐゐ猿小猿と云ゐ。万葉集にゐゐぶ
の涙ゐゐゐ。ゐの八ゐ伊勢の山の名ゐゐけて。

源氏のうち
せゝこゝまこ
ゆゝゝのい
ゝゝゝゝあゝく
ゝゝゝゝ

いそぎとゝし。嶽をなれば。うつゝを見るな
どのゝゝ思ひて。このゝひゝゝの詞をかけて云り。
二ゝ有せゝよ。君よかゝゝゝゝ

きりにとくて。れを明るとてるもをそり

ちづてこなすは　心さよりぬ

家業条。秋風之千枝の陳四ごづこなる。四さ

結尾之之　あらし風を　のあやより　きりと

よりあ。ほそきらゐど。さづみい木屑(ハシ)まて。新業

のてぐるもと。ほきまとれ。そよ。ぐて物の帽を

つ侍ちとい古ゑ。見い海上より流をるぐよ

杉木なぐの。ぐ。海ゑ。ちを形て。法よ。ちを

るをを心のるは。ぐ。ぐはぐ。ぐらはより。ぐ。ほを

ちふよりぐみをれづみをよあり

冨士
陸軍

国立公文書館
National Archives of Japan